

IPアクセスルータ
Si-R シリーズ

Si-R効率化運用ツール使用手引書
V2

はじめに

このたびは、本装置をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。
インターネットやLANをさらに活用するために、本装置をご利用ください。

2006年 1月初版
2006年 3月第2版
2006年 4月第3版
2006年 6月第4版
2006年 9月第5版
2007年 3月第6版
2007年 7月第7版
2007年 11月第8版

本ドキュメントには「外国為替及び外国貿易管理法」に基づく特定技術が含まれています。
従って本ドキュメントを輸出または非居住者に提供するとき、同法に基づく許可が必要となります。
Microsoft Corporationのガイドラインに従って画面写真を使用しています。
All rights reserved, Copyright© 富士通株式会社 2006 - 2007

目次

はじめに	2
本書の構成と使いかた	4
本書の読者と前提知識	4
本書の構成	4
本書における商標の表記について	5
第 1 章 概要.....	6
1.1 Si-R 効率化運用ツールの構成	7
1.2 Si-R 効率化運用ツール利用時のメリット	8
第 2 章 インストールと起動	9
2.1 必要なシステム	10
2.2 Si-R 効率化運用サーバのインストール	11
2.3 Si-R 効率化運用サーバのアンインストール	14
2.4 Si-R 効率化運用サーバの起動	15
2.5 Si-R 効率化運用サーバの終了	17
第 3 章 導入.....	18
3.1 Si-R 効率化運用ツールを導入する	19
3.1.1 拠点情報の設定	20
3.1.2 拠点情報の変更／削除	28
第 4 章 運用.....	31
4.1 拠点メンテナンス	32
4.1.1 構成定義転送	32
4.1.2 ファームウェア更新	34
4.1.3 ログ採取	36
4.2 システムログサーバ	38
4.2.1 システムログサーバを起動する	39
4.2.2 システムログサーバを終了する	40
4.2.3 受信したシステムログを随時保存する	41
4.2.4 現在表示されているシステムログをファイルに保存する	42
4.2.5 特定メッセージ受信時にポップアップウィンドウで通知する	43
4.2.6 特定メッセージ受信時にメールで通知する	45
索引	48

本書の構成と使いかた

本書では、本装置の運用を効率的に行うための「Si-R 効率化運用ツール」の使用方法について説明しています。

本書の読者と前提知識

本書は、ネットワーク管理を行っている方を対象に記述しています。

本書を利用するにあたって、ネットワークおよびインターネットに関する基本的な知識が必要です。

本書の構成

以下に、本書の構成と各章の内容を示します。

章タイトル	内 容
第1章 概要	この章では、Si-R 効率化運用ツールの概要を説明します。
第2章 インストールと起動	この章では、Si-R 効率化運用サーバのインストール／アンインストール方法および起動／終了方法について説明します。
第3章 導入	この章では、Si-R 効率化運用ツールの導入方法について説明します。
第4章 運用	この章では、拠点での運用方法を説明します。

マークについて

本書で使用しているマーク類は、以下のような内容を表しています。



ヒント 本装置をお使いになる際に、役に立つ知識をコラム形式で説明しています。

こんな事に気をつけて

本装置をご使用になる際に、注意していただきたいことを説明しています。



補足 操作手順で説明しているもののほかに、補足情報を説明しています。



参照 操作方法など関連事項を説明している箇所を示します。



適用機種 本装置の機能を使用する際に、対象となる機種名を示します。



警告 製造物責任法（PL）関連の警告事項を表しています。本装置をお使いの際は必ず守ってください。



注意 製造物責任法（PL）関連の注意事項を表しています。本装置をお使いの際は必ず守ってください。

本書における商標の表記について

Microsoft、Windows、Windows NT、Windows Server および Windows Vista は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。

Adobe および Reader は、Adobe Systems Incorporated（アドビシステムズ社）の米国ならびに他の国における商標または登録商標です。

UNIX は、米国およびその他の国におけるオープン・グループの登録商標です。

本書に記載されているその他の会社名および製品名は、各社の商標または登録商標です。

製品名の略称について

本書で使用している製品名は、以下のように略して表記します。

製品名称	本文中の表記
Microsoft® Windows® XP Professional operating system	Windows® XP
Microsoft® Windows® XP Home Edition operating system	
Microsoft® Windows® Millennium Edition operating system	Windows® Me
Microsoft® Windows® 98 operating system	Windows® 98
Microsoft® Windows® 95 operating system	Windows® 95
Microsoft® Windows® 2000 Server Network operating system	Windows® 2000
Microsoft® Windows® 2000 Professional operating system	
Microsoft® Windows NT® Server network operating system Version 4.0	Windows NT® 4.0
Microsoft® Windows NT® Workstation operating system Version 4.0	
Microsoft® Windows Server® 2003, Standard Edition	Windows Server® 2003
Microsoft® Windows Server® 2003 R2, Standard Edition	
Microsoft® Windows Server® 2003, Enterprise Edition	
Microsoft® Windows Server® 2003 R2, Enterprise Edition	
Microsoft® Windows Server® 2003, Datacenter Edition	
Microsoft® Windows Server® 2003 R2, Datacenter Edition	
Microsoft® Windows Server® 2003, Web Edition	
Microsoft® Windows Server® 2003, Standard x64 Edition	
Microsoft® Windows Server® 2003 R2, Standard Edition	
Microsoft® Windows Server® 2003, Enterprise x64 Edition	
Microsoft® Windows Server® 2003 R2, Enterprise x64 Edition	
Microsoft® Windows Server® 2003, Enterprise Edition for Itanium-based systems	
Microsoft® Windows Server® 2003, Datacenter x64 Edition	
Microsoft® Windows Server® 2003 R2, Datacenter x64 Edition	
Microsoft® Windows Vista® Ultimate operating system	Windows Vista®
Microsoft® Windows Vista® Business operating system	
Microsoft® Windows Vista® Home Premium operating system	
Microsoft® Windows Vista® Home Basic operating system	
Microsoft® Windows Vista® Enterprise operating system	

第1章 概要



この章では、Si-R 効率化運用ツールの概要を説明します。

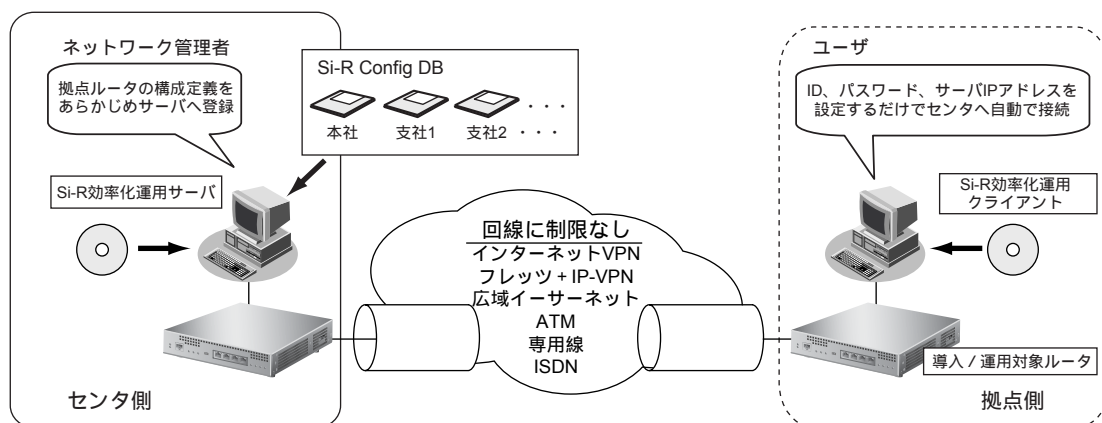
1.1	Si-R 効率化運用ツールの構成	7
1.2	Si-R 効率化運用ツール利用時のメリット	8

1.1 Si-R 効率化運用ツールの構成

Si-R 効率化運用ツールは、Si-R シリーズと Si-R70brin の新規導入およびファームウェア更新や構成定義変更などのメンテナンスを支援することを目的としたツールです。本ツールを使用することにより、多数の拠点をもつようなネットワーク構成の場合でも、各拠点ルータの構成定義情報、ファームウェアおよびログ情報を一元管理することができます。

Si-R 効率化運用ツールは、以下の 4 つのツールから構成されています。

- **Si-R 効率化運用クライアント**
拠点での導入時に使用するツールです。
Si-R 効率化運用サーバへアクセスするための接続形態を選択し、必要最小限の情報を入力します。その後、ルータが再起動すると、自動的に Si-R 効率化運用サーバに対してアクセスを行い、拠点に応じた構成定義情報の取得およびファームウェアの更新を実行します。
クライアントの使用方法は「ご使用にあたって」をご覧ください。
- **Si-R 効率化運用サーバ**
各拠点の情報を一括管理する情報管理センタで使用するツールです。
ファームウェアおよび各拠点の構成定義情報の管理、更新およびログ情報の採取などを行うメンテナンス機能をサポートしています。このツールを使用して、導入サーバおよびシステムログサーバの起動や停止を行います。
- **導入サーバ**
Si-R 効率化運用サーバから起動するツールです。
拠点から Si-R 効率化運用クライアントを使用して導入を行う場合は、必ず起動します。Si-R 効率化運用クライアントからの要求に応じて、拠点の構成定義およびファームウェアの更新を行います。
- **システムログサーバ**
Si-R 効率化運用サーバから起動するツールです。
システムログ情報を収集する場合は、必ず起動してください。各拠点ルータの構成定義情報にシステムログサーバとして設定することによって、システムログ情報を収集することができます。



対象機種：Si-R シリーズ V30以降、Si-R brin シリーズ

1.2 Si-R 効率化運用ツール利用時のメリット

従来より効率的かつ確実性の高い導入が可能

- センタのネットワーク管理者が一括して各拠点の構成定義情報を作成するため、導入拠点側では簡単なブラウザ操作だけで導入作業ができます。
- 導入拠点で使用するルータは、ご購入時の状態のままで使用できます。
- 各導入拠点にルータ設定するためのネットワーク技術者を派遣する必要がありません。

運用中の構成定義変更がセンタ側で一元的に可能

- 拠点側は無人で作業できます。
- 構成定義は、即時切り替えと時刻設定によるスケジュール切り替えを行うことができます。
- 万一の場合も、拠点側にパソコンを使える人がいれば導入作業と同じ操作で解決できます。

セキュリティ対策などのファームウェアメンテナンスもセンター一括で可能

- 拠点側は無人で作業できます。
- ファームウェア更新は、即時切り替えと時刻設定によるスケジュール切り替えを行うことができます。

第2章 インストールと起動



この章では、Si-R 効率化運用サーバのインストール／アンインストール方法および起動／終了方法について説明します。

2.1	必要なシステム	10
2.2	Si-R 効率化運用サーバのインストール	11
2.3	Si-R 効率化運用サーバのアンインストール	14
2.4	Si-R 効率化運用サーバの起動	15
2.5	Si-R 効率化運用サーバの終了	17

2.1 必要なシステム

以下に、Si-R 効率化運用ツールを利用するために必要なハードウェアとソフトウェアを示します。

Si-R 効率化運用サーバ使用時

項目	詳細
基本ソフトウェア	以下のどちらかの基本ソフトウェア <ul style="list-style-type: none"> 日本語版の Microsoft® Windows® 2000 Service Pack4 以降 日本語版の Microsoft® Windows® XP 日本語版の Microsoft® Windows Vista®
パソコン	上記基本ソフトウェアが稼動する IBM AT 互換パソコン
CPU	上記基本ソフトウェアが推奨する CPU
メモリ	上記基本ソフトウェアが推奨するメモリ
ハードディスク容量	Si-R 効率化運用ツールのインストールには、10MB 以上の空き容量が必要です。 それに加え、各拠点の構成定義情報および各装置のファームウェアを保存するための空き容量が必要になります。
CD-ROM ドライブ	プログラムをインストールするために必要です。
LAN	Si-R シリーズおよび Si-R70brin やネットワークと接続するために LAN インタフェースが必要です。

Si-R 効率化運用クライアント使用時

項目	詳細
基本ソフトウェア	Ethernet 接続による IP 通信および WWW ブラウザの動作が可能な基本ソフトウェア
パソコン	上記基本ソフトウェアが稼動するパソコン
CPU	上記基本ソフトウェアが推奨する CPU
メモリ	上記基本ソフトウェアが推奨するメモリ
ハードディスク容量	クライアントはインストールされませんので不要です。
WWW ブラウザ	Microsoft® Internet Explorer 6.0 以降をお勧めします。
CD-ROM ドライブ	Si-R 効率化運用クライアントを実行するために必要です。
LAN	Si-R シリーズおよび Si-R70brin やネットワークと接続するために LAN インタフェースが必要です。

2.2 Si-R 効率化運用サーバのインストール

ここでは、Si-R 効率化運用サーバをインストールする方法を説明します。

一括管理を行うセンタのパソコンに、管理者権限でインストールします。拠点側にインストールする必要はありません。

1. CD-ROM ドライブに「Si-Rxxx 取扱説明書」のCD-ROM をセットします。

自動的にプログラムが起動し、スタートアップ画面が表示されます。



こんな事に気をつけて

Windows® のCD-ROMの設定が「自動挿入」になっていない場合は、自動的にプログラムが起動しません。手動でインストールを始める場合は、Windows® の「スタート」メニューから「マイコンピュータ」を選択（または、デスクトップの「マイコンピュータ」をクリック）し、CD-ROMドライブ、「bin」フォルダ、「PDFExec.exe」（または「PDFExec」）ファイルの順にクリックしてください。

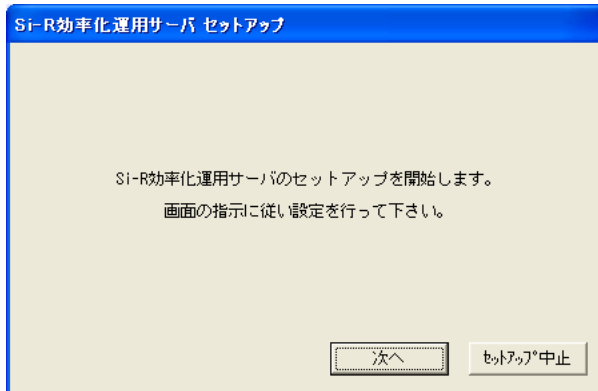
2. 「Si-R 効率化運用ツール」をクリックします。

Si-R 効率化運用ツールの画面が表示されます。



3. 「インストーラの起動」をクリックします。

「Si-R 効率化運用サーバセットアップ」画面が表示されます。



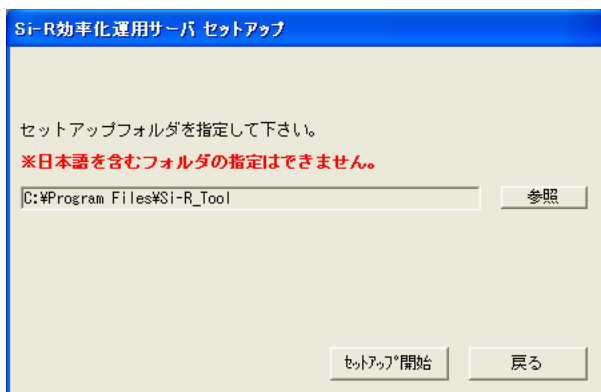
4. 「次へ」ボタンをクリックします。

「使用許諾条件」が表示されます。

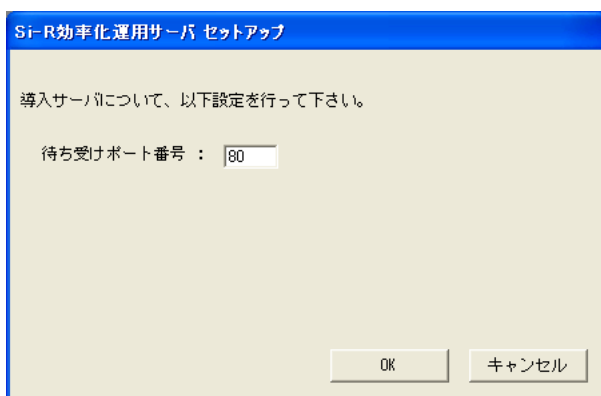
5. 「使用許諾条件」をよく読み、[はい] ボタンをクリックします。
[いいえ] ボタンをクリックした場合は、インストールが中断されます。

6. インストール先に問題がない場合は、そのまま【セットアップ開始】ボタンをクリックします。
別の場所にインストールする場合は、【参照】ボタンをクリックしてインストール先を変更してから、
【セットアップ開始】ボタンをクリックします。

必要なコンポーネントがハードディスクにコピーされます。



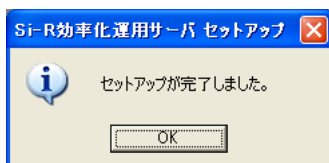
7. 使用するポート番号に問題がない場合は、そのまま【OK】ボタンをクリックします。
使用するポート番号を変更する場合は、ポート番号を指定してから【OK】ボタンをクリックします。



こんな事に気をつけて

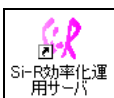
導入サーバにはHTTPサーバを使用します。すでにHTTPサーバが動作しているパソコンにインストールする場合は、使用するポート番号が重複しないようにしてください。

「セットアップが完了しました。」というメッセージが表示されます。



8. 【OK】ボタンをクリックします。

デスクトップに「Si-R 効率化運用サーバ」のアイコンが作成されます。



2.3 Si-R 効率化運用サーバのアンインストール

ここでは、Si-R 効率化運用サーバをアンインストールする方法を説明します。

1. Si-R 効率化運用サーバを起動します。
2. 「導入サーバ」および「システムログサーバ」が停止中状態にあることを確認して、[終了] ボタンをクリックします。
停止中でない場合は、「ツール」メニューで停止してから [終了] ボタンをクリックします。

 参照 「2.5 Si-R 効率化運用サーバの終了」(P.17)

3. Si-R 効率化運用サーバをインストールしたフォルダを削除します。

こんな事に気をつけて

拠点構成定義ファイルおよびファームウェアファイルも削除されるため、必要に応じてバックアップを行ってください。

4. デスクトップから「Si-R 効率化運用サーバ」のアイコンを削除します。

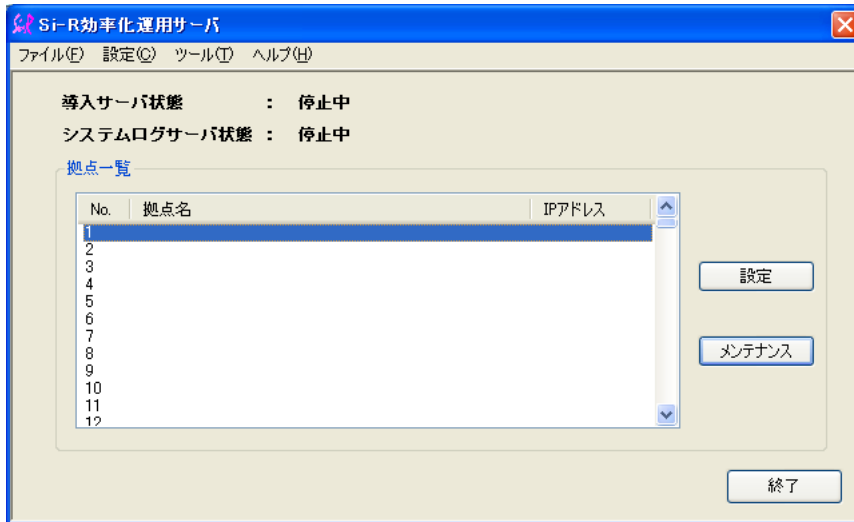
2.4 Si-R 効率化運用サーバの起動

ここでは、Si-R 効率化運用サーバを起動する方法を説明します。

Si-R 効率化運用サーバは、管理者権限で起動してください。

1. デスクトップの「Si-R 効率化運用サーバ」のアイコンをダブルクリックします。

Si-R 効率化運用サーバが起動し、「Si-R 効率化運用サーバ」画面が表示されます。

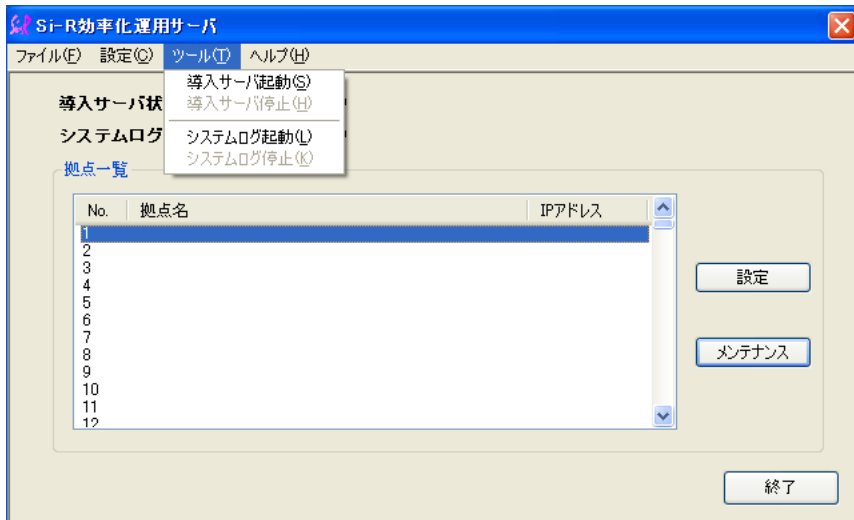


2. 導入サーバを起動する場合は、「ツール」メニューの「導入サーバ起動」を選択します。

「導入サーバ状態」が「起動中」に変わります。

システムログサーバを起動する場合は、「ツール」メニューの「システムログ起動」を選択します。

「システムログサーバ状態」が「起動中」に変わります。





Windows® XP Service Pack 2を使用する場合、Windows ファイアウォールが有効になっていると、「導入サーバ」および「システムログサーバ」が正常に動作しない場合があります。以下の手順で、例外プログラムに登録してください。

1. 「スタート」メニューから「コントロールパネル」を選択し、「Windows ファイアウォール」をクリックします。
2. 「全般」タブを選択し、「例外を許可しない」にチェックされている場合はチェックを外します。
3. 「例外」タブを選択し、「プログラムの追加」ボタンをクリックします。
「プログラムの追加」画面が表示されます。
4. 「参照」ボタンをクリックします。
「参照」画面が表示されます。
5. 「インストールフォルダ (C:\Program Files\Si-R_Tool)」 - 「httpd」フォルダ - 「bin」フォルダ - 「httpd.exe」の順に選択して、「開く」ボタンをクリックします。
「パス」に選択したプログラムが表示されます。
6. [OK] ボタンをクリックします。
「プログラムおよびサービス」欄に追加したプログラムが表示されます。
7. 手順3. ～6. を参考に、以下のプログラムを登録します。
 - ・ C:\Program Files\Si-R_Tool\httpd\cgi-bin\nph-rac.cgi
(「ファイルの種類」を「すべてのファイル」に変更すると表示されます)
 - ・ C:\Program Files\Si-R_Tool\syslog\Syslogd.exe
8. [OK] ボタンをクリックします。

Windows Vista®を使用する場合で、「導入サーバ」および「システムログサーバ」が正常に動作していない場合、管理者権限で実行しているかを確認してください。以下の手順で、管理者として実行することができます。

1. デスクトップの「Si-R 効率化運用サーバ」を右クリックします。
2. 「管理者として実行」をクリックします。

2.5 Si-R 効率化運用サーバの終了

ここでは、Si-R 効率化運用サーバを終了する方法を説明します。

1. 導入サーバを起動している場合は、「ツール」メニューの「導入サーバ停止」を選択します。

「導入サーバ状態」が「停止中」に変わります。

システムログサーバを起動している場合は、「ツール」メニューの「システムログ停止」を選択します。

「システムログサーバ状態」が「停止中」に変わります。

2. [終了] ボタンをクリックします。

こんな事に気をつけて

導入サーバまたはシステムログサーバが起動中状態のまま、Si-R 効率化運用サーバを終了した場合、自動的に導入サーバおよびシステムログサーバの停止処理を行います。しかし、ごくまれに完全に停止できない場合があります。その場合、次回のSi-R 効率化運用サーバ起動時に、状態が停止中ではないため、一度「ツール」メニューで停止したあと、再度起動処理を行ってください。

第3章 導入



この章では、Si-R 効率化運用ツールの導入方法について説明します。

3.1	Si-R 効率化運用ツールを導入する	19
3.1.1	拠点情報の設定	20
3.1.2	拠点情報の変更／削除	28

3.1 Si-R 効率化運用ツールを導入する

Si-R 効率化運用ツールを導入するには、情報を管理するセンタ側で事前に拠点情報を設定し、設定内容とセンタ側の情報を各拠点へ送付する必要があります。

拠点情報を設定する際に必要な情報を以下に示します。

項目	詳細
拠点名	設定する拠点の名前を指定します。
装置の IP アドレス	サーバから拠点ルータにアクセス可能な IP アドレスを指定します。 たとえば、インターネットを経由した VPN を構築している場合は、拠点ルータのプライベート LAN 側の IP アドレスを指定します。導入後のメンテナンス時に使用します。
装置のパスワード	拠点ルータにログインするためのパスワードを指定します。
アクセス ID	拠点導入時に拠点ルータを識別するための識別名を指定します。 全拠点で異なる識別名を付与する必要があります。
アクセスパスワード	拠点導入時に拠点ルータを認証するためのパスワードを指定します。 導入時にはアクセス ID と併せて、拠点操作者に通知されます。
構成定義ファイル	<p>拠点ルータの構成定義ファイルを指定します。</p> <p>【参照】 ボタンをクリックして、構成定義ファイルを選択します。</p> <p>構成定義ファイルは、本装置から FTP/SFTP を使用してダウンロードしたファイルをそのまま使用できます。また、本装置の show コマンドを使用して表示した構成定義情報を、コピーして使用することもできます。</p> <p>☛ 参照 Si-R シリーズ コマンドユーザズガイド 「2.3.3 FTP/SFTP サーバ機能を使ってメンテナンスする」 Si-R brin シリーズ コマンドユーザズガイド 「2.3.3 FTP/SFTP サーバ機能を使ってメンテナンスする」 Si-R シリーズ Web ユーザーズガイド 「2.3.6 FTP/SFTP サーバ機能を使ってメンテナンスする」 Si-R brin シリーズ Web ユーザーズガイド 「2.3.5 FTP/SFTP サーバ機能を使ってメンテナンスする」 Si-R シリーズ コマンドユーザズガイド 「2.3.2 構成定義情報を確認する」 Si-R brin シリーズ コマンドユーザズガイド 「2.3.2 構成定義情報を確認する」</p>

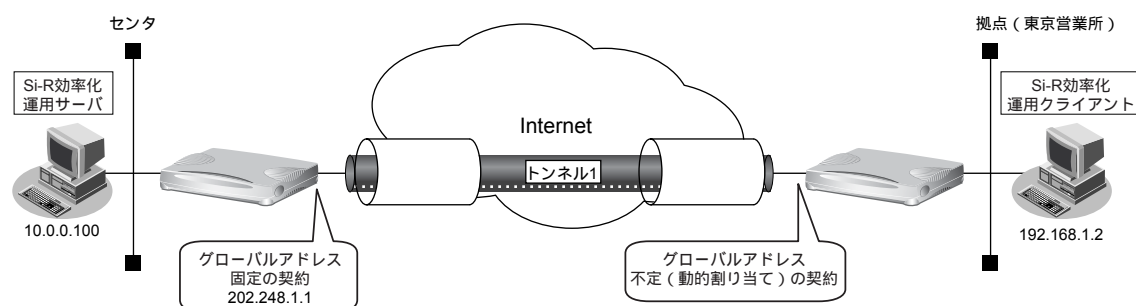
こんな事に気をつけて

- 構成定義ファイルをパソコンで編集する場合は、メモ帳などのテキストエディタを使用し、プレーンテキスト形式（.txt 形式）で保存してください。
- 構成定義ファイルでは、制御コマンド／表示コマンドを使用できません。

3.1.1 拠点情報の設定

Si-R 効率化運用ツールを拠点へ導入する事例を紹介します。

ここでは、Si-R180 を例に説明します。



● 設定条件

【共通情報】

- 接続形態 : PPPoE 接続によるインターネットVPN 接続
- 拠点名 : 東京営業所
- 装置のIPアドレス : 192.168.1.1
- 装置のパスワード : tokyo-pass
- アクセスID : tokyo-100
- アクセスパスワード : pass-100

【拠点情報】

- ルータ機種 : Si-R180
- ISP ユーザ認証ID : tokyo.eigyo@fujitsu.com
- ISP ユーザ認証パスワード : tokyo.eigyo

【センタ情報】

- サーバのプライベートアドレス : 10.0.0.100
- サーバのグローバルアドレス : 202.248.1.1
- サーバのポート番号 : 80

こんな事に気をつけて

- Si-R 効率化運用クライアントは、導入する拠点のルータがご購入時の状態であることを前提に設定されています。導入する拠点のルータの構成定義情報がご購入時の状態になっていない場合は、ご購入時の状態に戻してから設定してください。



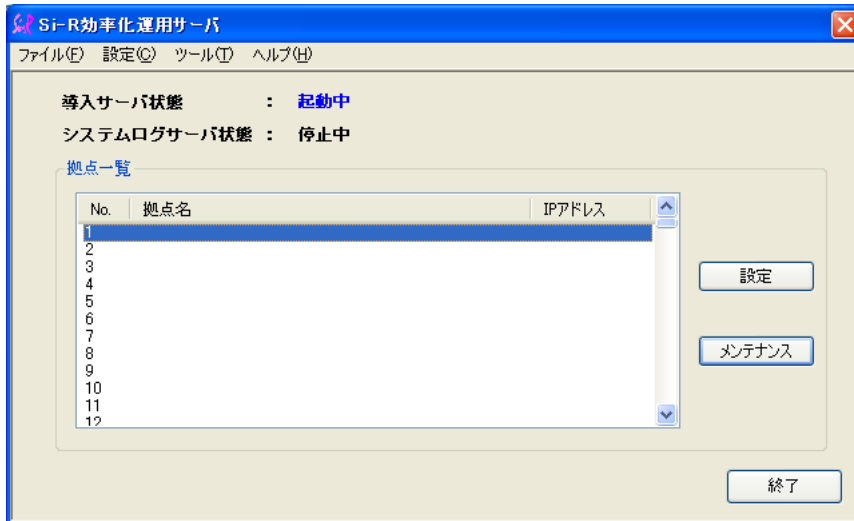
参照 Si-R シリーズ トラブルシューティング「5 ご購入時の状態に戻すには」

Si-R brin シリーズ トラブルシューティング「4 ご購入時の状態に戻すには」

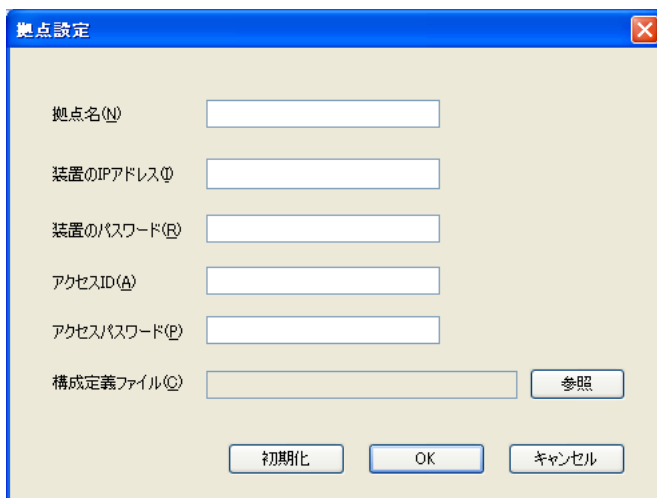
- 拠点ルータは、初めに導入サーバにアクセスします。したがって、センタ側のルータにIPフィルタやNATが動作している場合は、正しく導入サーバに接続できるように設定する必要があります。本設定例の場合であれば、202.248.1.1:80あてのTCPセッションを許可し、アドレスを10.0.0.100:80に変換するように設定します。

センタ側を設定する

1. デスクトップの「Si-R 効率化運用サーバ」のアイコンをダブルクリックします。
Si-R 効率化運用サーバが起動し、「Si-R 効率化運用サーバ」画面が表示されます。
2. 「ツール」メニューの「導入サーバ起動」を選択します。
「導入サーバ状態」が「起動中」に変わります。

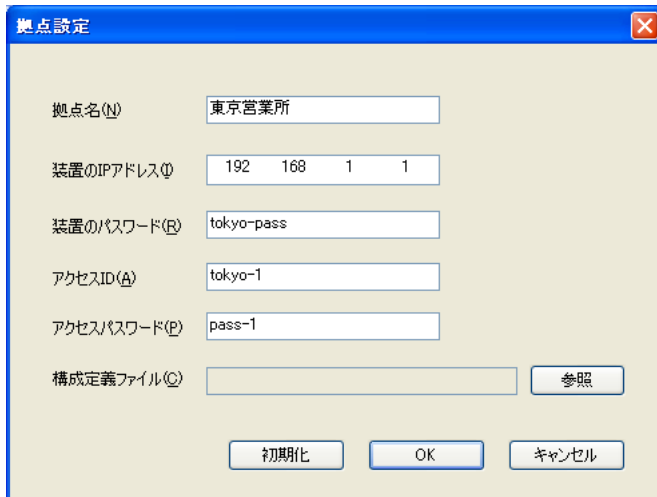


3. 「拠点一覧」で拠点名が空白の欄を選択して、「設定」ボタンをクリックします。
「拠点設定」画面が表示されます。



4. 以下の項目を指定します。

- 拠点名 : 東京営業所
- 装置のIPアドレス : 192.168.1.1
- 装置のパスワード : tokyo-pass
- アクセスID : tokyo-1
- アクセスパスワード : pass-1



拠点設定 dialog box. The title bar is blue with a close button. The main area is light beige. It contains several input fields and buttons.

拠点名(N): 東京営業所

装置のIPアドレス(I): 192 168 1 1

装置のパスワード(P): tokyo-pass

アクセスID(A): tokyo-1

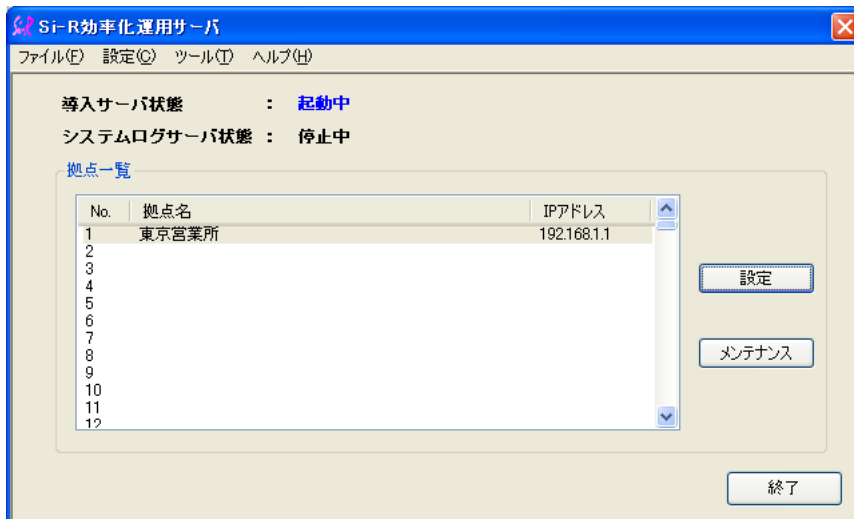
アクセスパスワード(P): pass-1

構成定義ファイル(Q): [empty] 参照

Buttons: 初期化, OK, キャンセル

5. [OK] ボタンをクリックします。

「拠点一覧」に拠点情報が追加されます。



Si-R効率化運用サーバ main window. The title bar is blue with a close button. The menu bar includes: ファイル(F), 設定(C), ツール(T), ヘルプ(H).

導入サーバ状態 : 起動中

システムログサーバ状態 : 停止中

拠点一覧

No.	拠点名	IPアドレス
1	東京営業所	192.168.1.1
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		

Buttons: 設定, メンテナンス, 終了


6. PPPoE 接続設定シートに必要事項を記入して、導入拠点に送付します。

- 拠点名 : 東京営業所
- 接続形態 : PPPoE 接続
- ISP ユーザ認証 ID : tokyo.eigyo@fujitsu.com
- ISP ユーザ認証パスワード : tokyo.eigyo
- サーバの IP アドレス : 202.248.1.1
- サーバのポート番号 : 80
- アクセス ID : tokyo-100
- アクセスパスワード : pass-100

PPPoE 接続設定シート	
拠点名	[東京営業所]
接続形態	[PPPoE 接続]
機種名	[Si-R180]
ユーザ認証 ID	[tokyo.eigyo@fujitsu.com]
ユーザ認証パスワード	[tokyo.eigyo]
サーバの IP アドレス	[202.248.1.1]
サーバのポート番号	[80]
アクセス ID	[tokyo-100]
アクセスパスワード	[pass-100]

各接続設定シートは、「ご利用にあたって」に掲載されています。

利用する接続形態に合わせて、シートを印刷して、拠点への情報連絡や拠点情報の管理に使用してください。

-  **参考**
- Si-R70brin ご利用にあたって「2.5.1 設定シートと Si-R 効率化運用クライアント画面」
 - Si-R170 ご利用にあたって「2.4.1 設定シートと Si-R 効率化運用クライアント画面」
 - Si-R180 ご利用にあたって「2.4.1 設定シートと Si-R 効率化運用クライアント画面」
 - Si-R180B ご利用にあたって「2.4.1 設定シートと Si-R 効率化運用クライアント画面」
 - Si-R220B ご利用にあたって「2.5.1 設定シートと Si-R 効率化運用クライアント画面」
 - Si-R220C ご利用にあたって「2.5.1 設定シートと Si-R 効率化運用クライアント画面」
 - Si-R240 ご利用にあたって「2.6.1 設定シートと Si-R 効率化運用クライアント画面」
 - Si-R240B ご利用にあたって「2.7.1 設定シートと Si-R 効率化運用クライアント画面」
 - Si-R260 ご利用にあたって「2.5.1 設定シートと Si-R 効率化運用クライアント画面」
 - Si-R260B ご利用にあたって「2.5.1 設定シートと Si-R 効率化運用クライアント画面」
 - Si-R370 ご利用にあたって「2.5.1 設定シートと Si-R 効率化運用クライアント画面」
 - Si-R570 ご利用にあたって「2.5.1 設定シートと Si-R 効率化運用クライアント画面」

拠点側を設定する

センタ側の設定が完了していることを確認してから設定します。

1. PPPoE 接続する WAN 側を本装置の LAN0 ポートに接続し、Si-R 効率化運用クライアントを使用するパソコンを LAN1 ポートに接続します。

こんな事に気をつけて

接続ポートや接続できる回線などは、各装置によって異なります。

以下の表を参考にして、接続形態に合わせてパソコンと WAN 回線を接続してください。

装置名	接続ポート						
	クライアント パソコン側 (※1)	WAN 側					
		DHCP 接続	PPPoE 接続	広域LAN接続	専用線接続	ISDN 接続	ATM 接続
Si-R70brin	LAN1	LAN0			-		
Si-R170	LAN1	LAN0			-		
Si-R180	LAN1 (※2)	LAN0			-		
Si-R180B	LAN1 (※2)	LAN0			-		
Si-R220B	LAN0	LAN1			S/T または ISDN U		-
Si-R220C	LAN0	LAN1			S/T または ISDN U		-
Si-R240	LAN0	LAN1			-		
Si-R240B	LAN0	LAN1			-		
Si-R260	LAN0	LAN1			-		SLOT0
Si-R260B	LAN0	LAN1			-		ATM25
Si-R370	LAN0	LAN1			SLOT0		
Si-R570	LAN0	LAN1			SLOT0		

※1) 本ツールを使用しているパソコン側

※2) スイッチポート (SW1～4) 有効

2. 本装置の電源を投入します。
3. パソコンを立ち上げ、CD-ROM ドライブに「Si-Rxxx 取扱説明書」の CD-ROM をセットします。
自動的にプログラムが起動し、スタートアップ画面が表示されます。



こんな事に気をつけて

Windows® の CD-ROM の設定が「自動挿入」になっていない場合は、自動的にプログラムが起動しません。手動でインストールを始める場合は、Windows® の「スタート」メニューから「マイコンピュータ」を選択（または、デスクトップの「マイコンピュータ」をクリック）し、CD-ROM ドライブ、「bin」フォルダ、「PDFExec.exe」（または「PDFExec」）ファイルの順にクリックしてください。

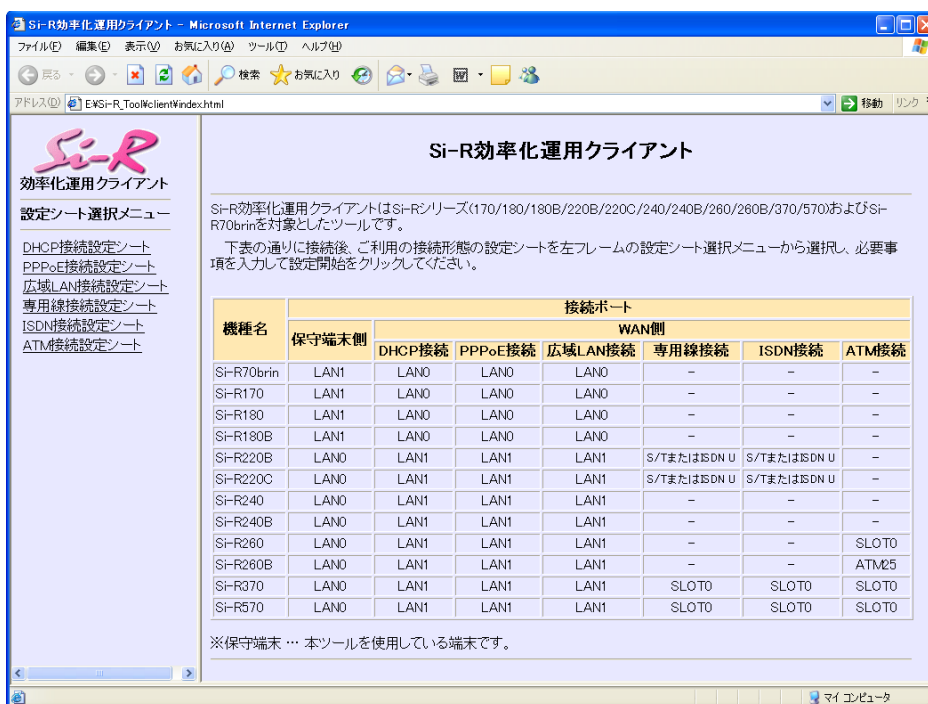
4. 「Si-R 効率化運用ツール」をクリックします。

Si-R 効率化運用ツールの画面が表示されます。



5. 「クライアントソフトウェアの起動」をクリックします。

「Si-R 効率化運用クライアント」ページが表示されます。



Windows® XP Service Pack 2 で Microsoft® Internet Explorer を使用する場合は、「セキュリティ保護のため、コンピュータにアクセスできるアクティブコンテンツは表示されないよう、Internet Explorer で制限されています。オプションを表示するには、ここをクリックしてください。」というメッセージが WWW ブラウザ画面上部に表示されることがあります。この場合、メッセージをクリックして「ブロックされているコンテンツを許可」を選択します。「セキュリティの警告」が表示されますが、[はい] ボタンをクリックしてください。一時的に許可されメッセージが出なくなります。

6. 画面左側の「設定シート選択メニュー」で「PPPoE 接続設定シート」をクリックします。

「PPPoE 接続設定シート」が表示されます。

7. センタから送付されてきた導入設定シートに従って、以下の項目を指定します。

- 機種名 : Si-R180
- ユーザ認証ID : tokyo.eigyo@fujitsu.com
- ユーザ認証パスワード : tokyo.eigyo
- サーバのIPアドレス : 202.248.1.1
- サーバのポート番号 : 80
- アクセスID : tokyo-100
- アクセスパスワード : pass-100

PPPoE接続設定シート

■装置設定

機種名

■接続設定

ユーザ認証ID

ユーザ認証パスワード

■導入サーバ設定

サーバのIPアドレス

サーバのポート番号

アクセスID

アクセスパスワード

設定を終了すると、自動的に再起動され、通信を行うことができる状態になります。設定を元に戻す場合はキャンセルをクリックしてください。

8. 【設定開始】 ボタンをクリックします。

「ルータ自動設定」画面が表示され、「設定が正常に終了しました。」のメッセージが表示されます。

9. 正規に運用する LAN を、パソコンが接続している LAN ポートに接続します。

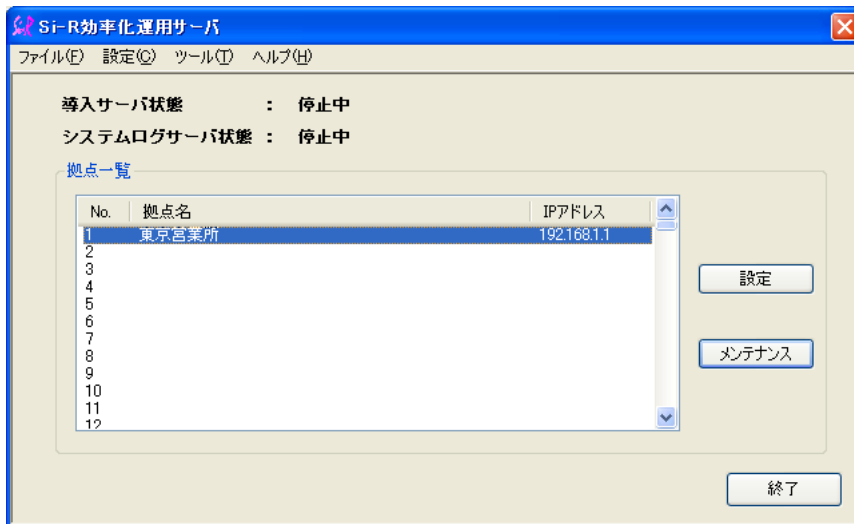
3.1.2 拠点情報の変更／削除

ここでは、拠点情報を変更／削除する方法を説明します。

拠点情報を変更する

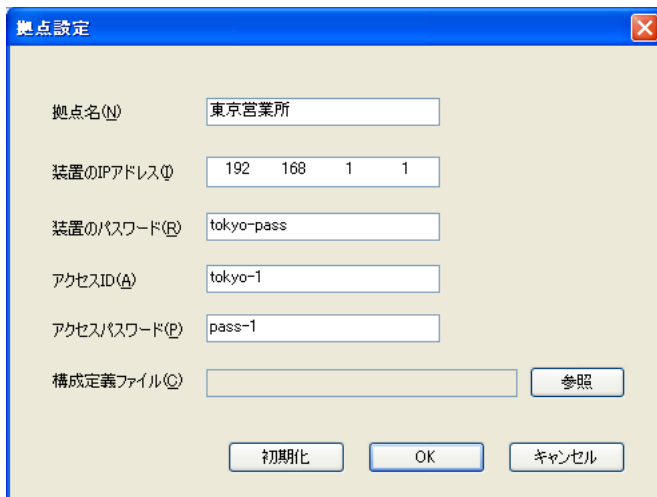
1. デスクトップの「Si-R 効率化運用サーバ」のアイコンをダブルクリックします。

Si-R 効率化運用サーバが起動し、「Si-R 効率化運用サーバ」画面が表示されます。



2. 「拠点一覧」で変更する拠点名の欄を選択して、「設定」ボタンをクリックします。

「拠点設定」が表示されます。



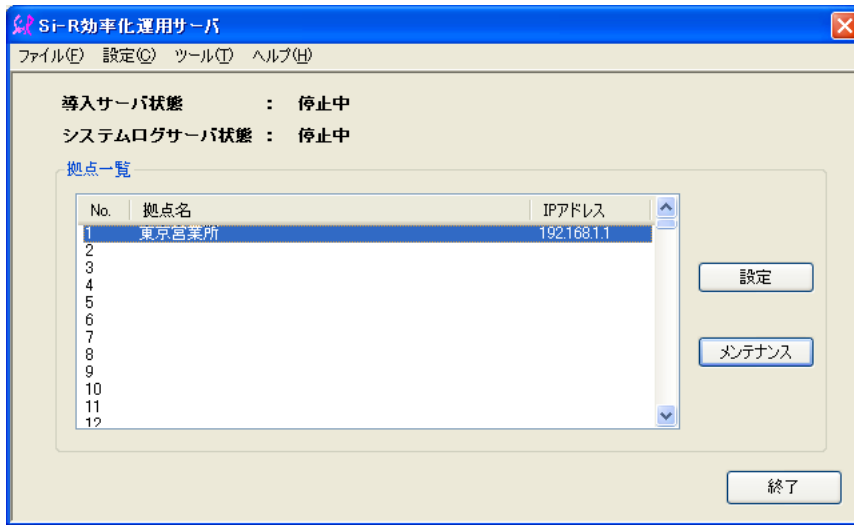
3. 設定内容を変更します。
4. [OK] ボタンをクリックします。

設定内容が変更されます。

拠点情報を削除する

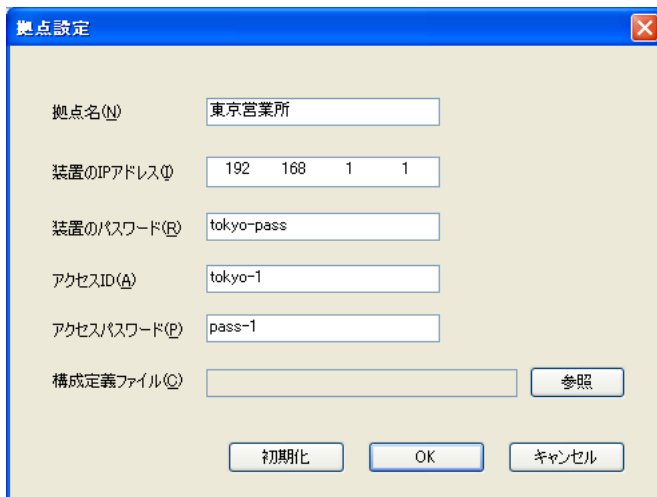
1. デスクトップの「Si-R 効率化運用サーバ」のアイコンをダブルクリックします。

Si-R 効率化運用サーバが起動し、「Si-R 効率化運用サーバ」画面が表示されます。



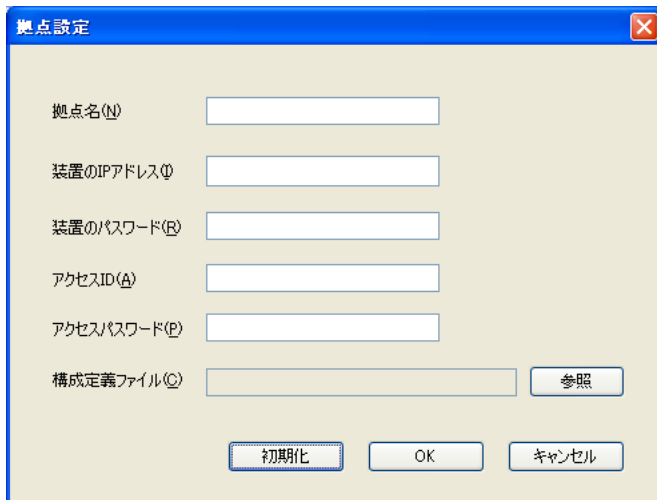
2. 「拠点一覧」で削除する拠点名の欄を選択して、「設定」ボタンをクリックします。

「拠点設定」が表示されます。



3. [初期化] ボタンをクリックします。

すべての情報が消去されます。

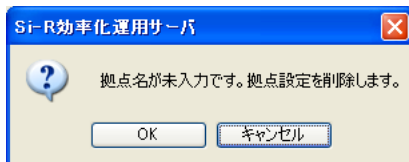


The dialog box titled "拠点設定" (Base Setting) contains the following fields and buttons:

- 拠点名(N) (Base Name): Text input field
- 装置のIPアドレス(I) (Device IP Address): Text input field
- 装置のパスワード(P) (Device Password): Text input field
- アクセスID(A) (Access ID): Text input field
- アクセスパスワード(P) (Access Password): Text input field
- 構成定義ファイル(C) (Configuration Definition File): Text input field with a "参照" (Reference) button next to it.
- Buttons at the bottom: "初期化" (Initialize), "OK", and "キャンセル" (Cancel).

4. [OK] ボタンをクリックします。

「拠点名が未入力です。拠点設定を削除します。」というメッセージが表示されます。



The message box titled "Si-R効率化運用サーバ" (Si-R Efficiency Operation Server) displays the following:

- Icon: A question mark inside a blue circle.
- Text: "拠点名が未入力です。拠点設定を削除します。" (Base name is not entered. Delete base setting.)
- Buttons: "OK" and "キャンセル" (Cancel).

5. [OK] ボタンをクリックします。

「拠点一覧」から拠点情報が削除されます。

第4章 運用



この章では、拠点での運用方法を説明します。

4.1	拠点メンテナンス	32
4.1.1	構成定義転送	32
4.1.2	ファームウェア更新	34
4.1.3	ログ採取	36
4.2	システムログサーバ	38
4.2.1	システムログサーバを起動する	39
4.2.2	システムログサーバを終了する	40
4.2.3	受信したシステムログを随時保存する	41
4.2.4	現在表示されているシステムログをファイルに保存する	42
4.2.5	特定メッセージ受信時にポップアップウィンドウで通知する	43
4.2.6	特定メッセージ受信時にメールで通知する	45

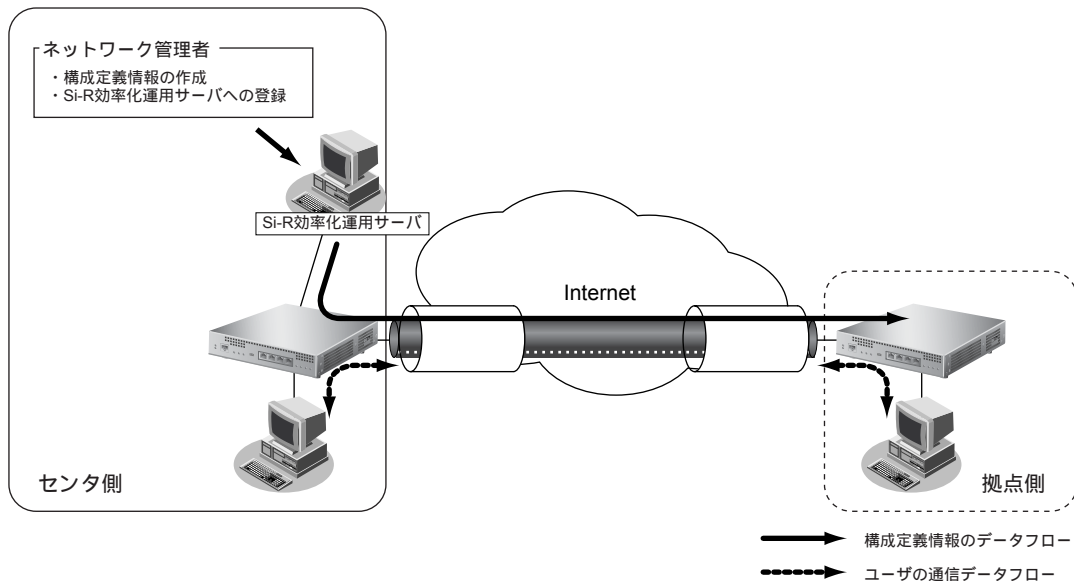
4.1 拠点メンテナンス

ここでは、拠点の構成定義、ファームウェアの更新、ログ情報の採取などのメンテナンス方法を説明します。
拠点メンテナンスは、拠点の導入作業が完了していることを前提としています。

4.1.1 構成定義転送

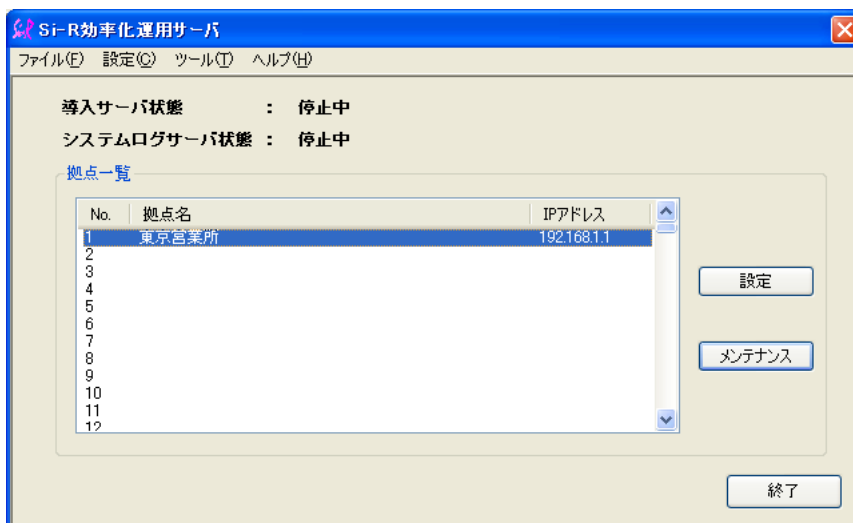
センタから拠点へ構成定義を送信し、更新する機能です。

特定の拠点だけでなく、一度の操作で複数の拠点に転送することができます。



1. 転送する構成定義ファイルを、拠点設定で指定した構成定義ファイルとして保存します。
2. デスクトップの「Si-R 効率化運用サーバ」のアイコンをダブルクリックします。

Si-R 効率化運用サーバが起動し、「Si-R 効率化運用サーバ」画面が表示されます。



3. 拠点一覧で、構成定義を転送する拠点名欄を選択して、[メンテナンス] ボタンをクリックします。
「メンテナンス」画面が表示されます。



[Ctrl] キーを押しながら選択すると複数選択ができます。また、[Shift] キーを押しながら選択すると範囲選択ができます。

4. 構成定義を転送後、すぐに反映する場合は、「構成定義転送」の[即時反映] ボタンをクリックします。
指定時刻に反映する場合は、指定日時を設定して[スケジュール反映] ボタンをクリックします。

こんな事に気をつけて

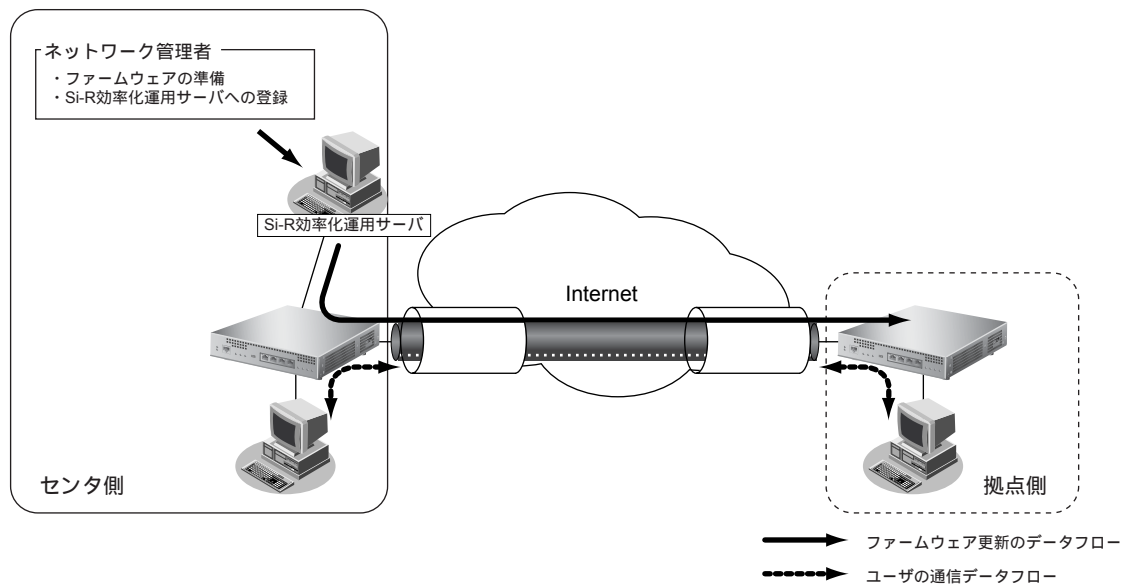
- ・「スケジュール反映」を使用する場合は、拠点ルータに時刻設定がされている必要があります。スケジュール反映を使用すると複数拠点の構成定義を指定時刻に変更できます。
- ・複数拠点を選択した場合、転送は 1 拠点ずつ順番に行います。選択した全拠点の転送・反映が完了するまでキャンセルできませんのでご注意ください。

5. [終了] ボタンをクリックします。

4.1.2 ファームウェア更新

センタから拠点へファームウェアを送信し、更新する機能です。

特定の拠点だけでなく、一度の操作で複数の拠点に転送を行うことができます。



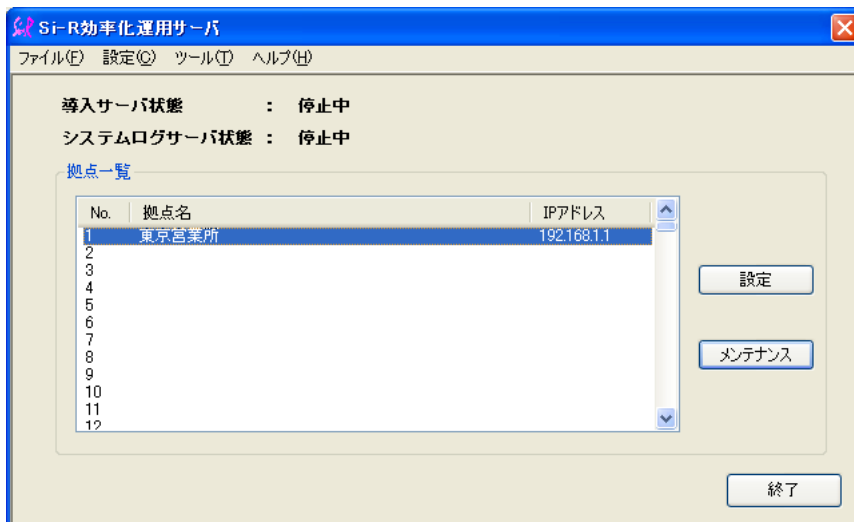
1. 転送するファームウェアを、設定したファームウェアフォルダに保存します。



ファームウェアフォルダは、インストール時、インストールフォルダ内の「firmware」フォルダが設定されています。ファームウェアフォルダは、「設定」メニューで確認および変更することができます。

2. デスクトップの「Si-R 効率化運用サーバ」のアイコンをダブルクリックします。

Si-R 効率化運用サーバが起動し、「Si-R 効率化運用サーバ」画面が表示されます。



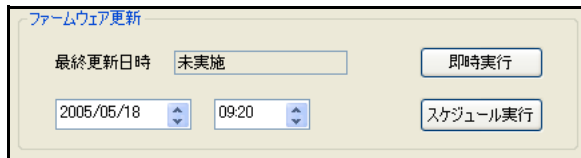
3. 拠点一覧で、ファームウェアを更新する拠点名欄を選択して、[メンテナンス] ボタンをクリックします。

「メンテナンス」画面が表示されます。



[Ctrl] キーを押しながら選択すると複数選択ができます。また、[Shift] キーを押しながら選択すると範囲選択ができます。

4. ファームウェアを転送後すぐに更新する場合は、「ファームウェア更新」の[即時実行] ボタンをクリックします。指定時刻に更新する場合は、指定日時を設定して[スケジュール実行] ボタンをクリックします。



ファームウェア更新

最終更新日時 未実施 即時実行

2005/05/18 09:20 スケジュール実行

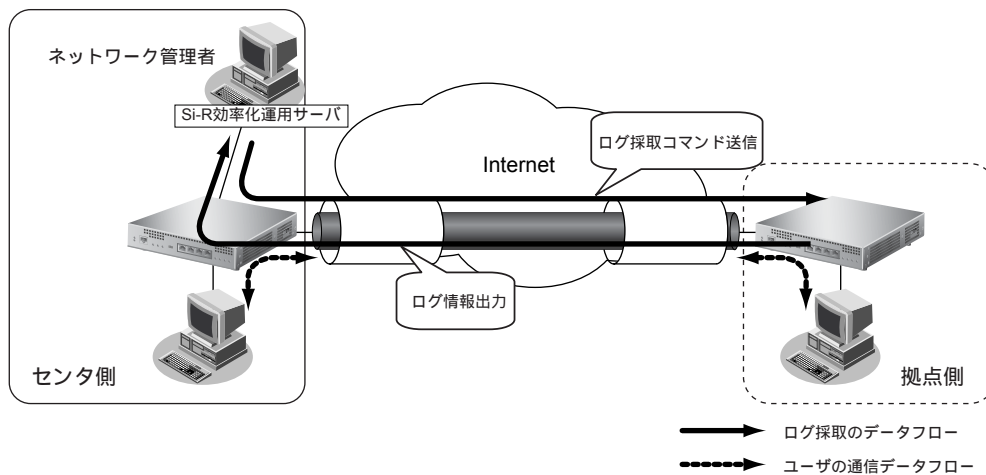
こんな事に気をつけて

- 「スケジュール実行」を使用する場合は、拠点ルータに時刻設定がされている必要があります。「スケジュール実行」を使用すると複数拠点のファームウェアを指定時刻に変更できます。
また、「スケジュール実行」を選択した場合、更新予定日時まで拠点ルータのLEDがすべて橙点滅を繰り返していますが、異常ではありません。
- 複数拠点を選択した場合、転送は1拠点ずつ順番に行います。選択した全拠点の転送・更新が完了するまでキャンセルできませんのでご注意ください。

4.1.3 ログ採取

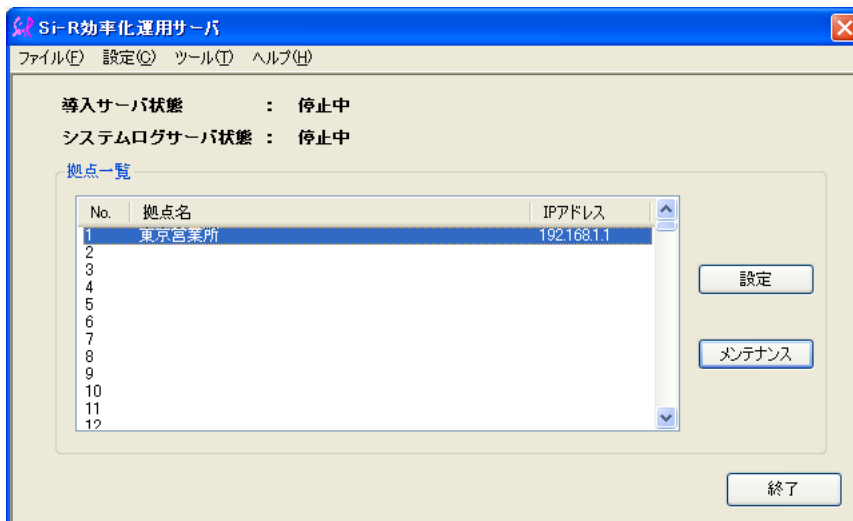
センタから拠点のログ情報を採取する機能です。

特定の拠点だけでなく、一度の操作で複数の拠点から採取することができます。



1. デスクトップの「Si-R 効率化運用サーバ」のアイコンをダブルクリックします。

Si-R 効率化運用サーバが起動し、「Si-R 効率化運用サーバ」画面が表示されます。



2. ログ情報の採取を行う拠点を選択し、[メンテナンス] ボタンをクリックします。
[Ctrl] キーを押しながら選択すると複数選択ができます。また、[Shift] キーを押しながら選択すると範囲選択ができます。
「メンテナンス」画面が表示されます。

3. 現在のログ情報を 1 度だけ採取する場合は、「ログ採取」の【即時実行 (1 回のみ)】ボタンをクリックします。一定間隔で複数回採取する場合は、採取間隔と採取回数を設定して【スケジュール実行】ボタンをクリックします。

採取したログ情報がログ格納フォルダに保存されます。ファイル名は「< 拠点名 >-< 採取した年月日時分秒 >.log」形式です。



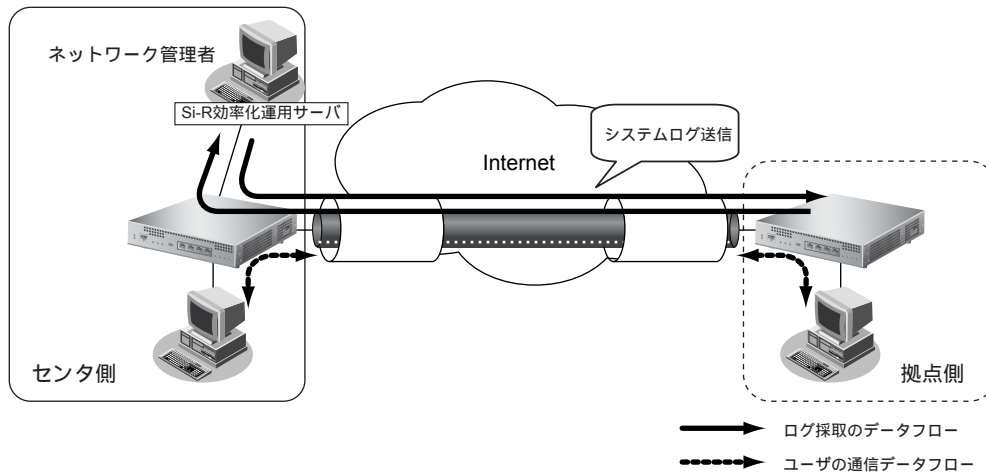
- ログ格納フォルダは、インストール時、インストールフォルダ内の「log」フォルダが設定されています。ログ格納フォルダは、「設定」メニューで確認および変更することができます。
- ログ格納フォルダには、拠点の採取ログ情報だけでなく、以下のログも保存されています。
 - sir_tool.log : Si-R 効率化運用サーバの操作ログ
 - < 拠点名 >.log : 各拠点の操作ログ

こんな事に気をつけて

- 「スケジュール実行」を使用する場合は、初回の実行はクリックした時刻に採取間隔を加算した時刻に行います。また、2 回以上の回数を指定した場合は、前回の採取実行開始時刻に採取間隔を加算した時刻に行います。ただし、複数拠点選択時など前回の採取処理がすべて完了していない場合は、採取処理完了を待ち、実行します。なお、採取完了から次の採取開始までの間は通常どおりツールの操作が可能です。
- スケジュール実行をキャンセルする場合は、次の採取開始時刻までの間に【スケジュール削除】ボタンをクリックしてください。
- 複数拠点を選択した場合、採取は 1 拠点ずつ順番に行います。選択した全拠点の採取が完了するまでキャンセルできませんのでご注意ください。

4.2 システムログサーバ

ここでは、拠点ルータからシステムログを受信するためのシステムログサーバの使用方法を説明します。



システムログサーバを使用し、管理対象の拠点からシステムログを受信することによって、トラブル発生時の状況確認や原因究明のための情報としてシステムログが利用でき、すみやかな解決を図ることができます。

システムログサーバを使用するには、各拠点の構成定義情報にシステムログサーバの設定をする必要があります。

- ☞ 参照
- Si-R シリーズ コマンド設定事例集「2.15 システムログを採取する」
 - Si-R brin シリーズ コマンド設定事例集「2.10 システムログを採取する」
 - Si-R シリーズ Web 設定事例集「2.15 システムログを採取する」
 - Si-R brin シリーズ Web 設定事例集「2.10 システムログを採取する」

システムログサーバを使用して、以下のことができます。

- 各拠点からのシステムログメッセージの受信およびリアルタイム表示
- 受信したシステムログの保存および過去に保存したシステムログの表示
- 事前に特定の文字列を設定することによって、その文字列を含むメッセージを受信したときに、ポップアップウィンドウまたはメールによるお知らせ

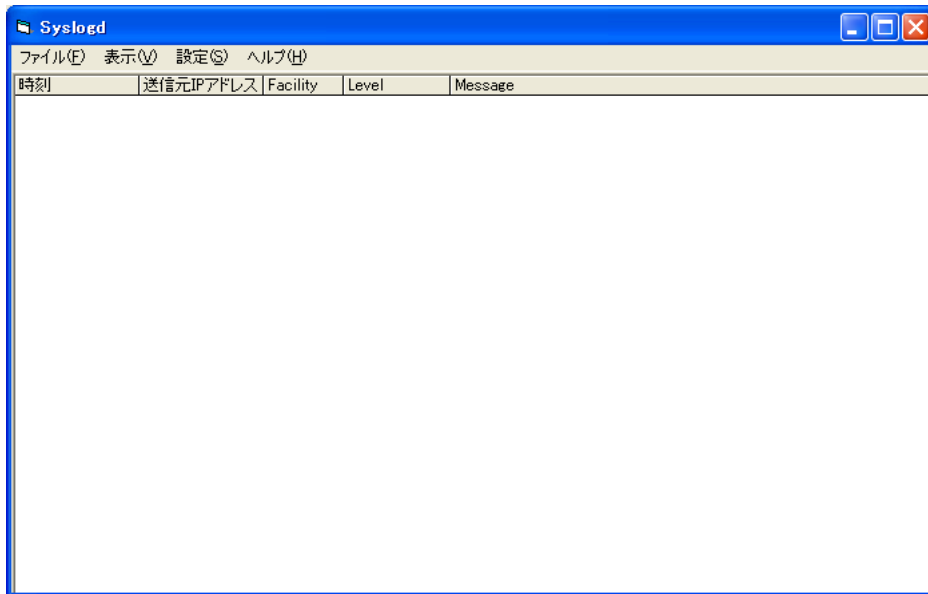
4.2.1 システムログサーバを起動する

1. デスクトップの「Si-R 効率化運用サーバ」のアイコンをダブルクリックします。

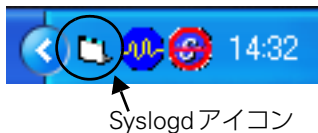
Si-R 効率化運用サーバが起動されます。

2. 「ツール」メニューの「システムログ起動」を選択します。

Syslogd が起動し、「Syslogd」画面が表示されます。また、タスクトレイに Syslogd のアイコンが表示され、「システムログサーバ状態」が「起動中」に変わります。



また、タスクトレイに Syslogd のアイコンが表示され、「システムログサーバ状態」が「起動中」に変わります。



こんな事に気をつけて

システムログサーバを使用中は、Si-R 効率化運用サーバを終了しないでください。終了した場合、システムログサーバも自動的に終了します。

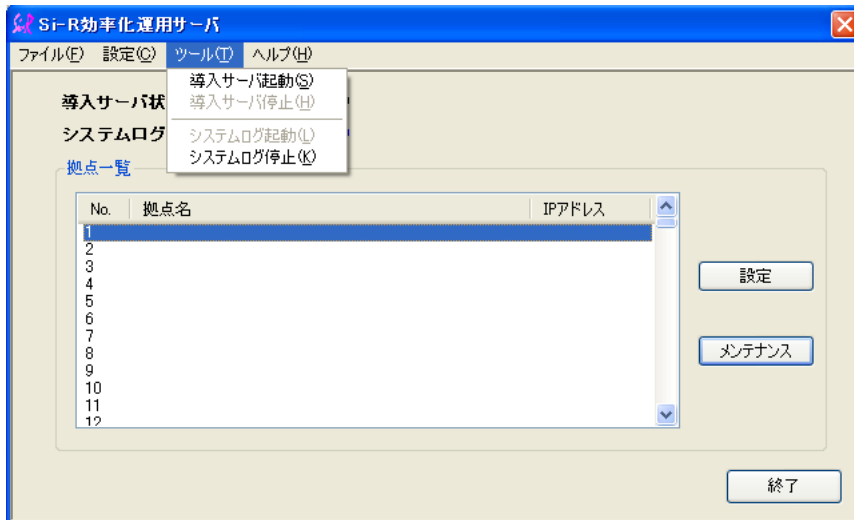
4.2.2 システムログサーバを終了する

1. Si-R 効率化運用サーバの「ツール」メニューの「システムログ停止」を選択します。

「Syslogd」画面が表示されている場合は閉じます。また、タスクトレイの Syslogd のアイコンが削除され、「システムログサーバ状態」が「停止中」に変わります。

こんな事に気をつけて

- 「Syslogd」画面を閉じてでも Syslogd は終了しません。Si-R 効率化運用サーバの「ツール」メニューの「システムログ停止」または Syslogd の「ファイル」メニューの「終了」を選択して終了してください。
- 「Syslogd」画面を閉じてしまった場合は、タスクトレイの Syslogd のアイコンを右クリックし、「通常表示に戻す」を選択して表示してください。

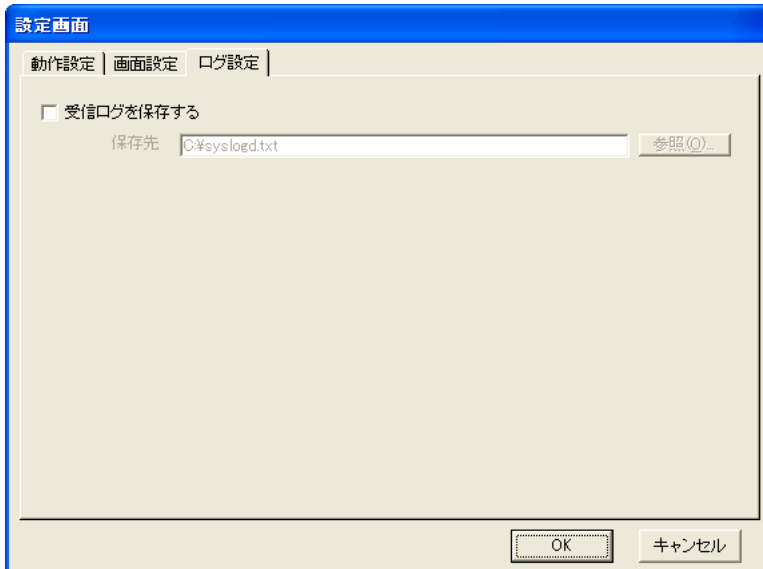


4.2.3 受信したシステムログを随時保存する

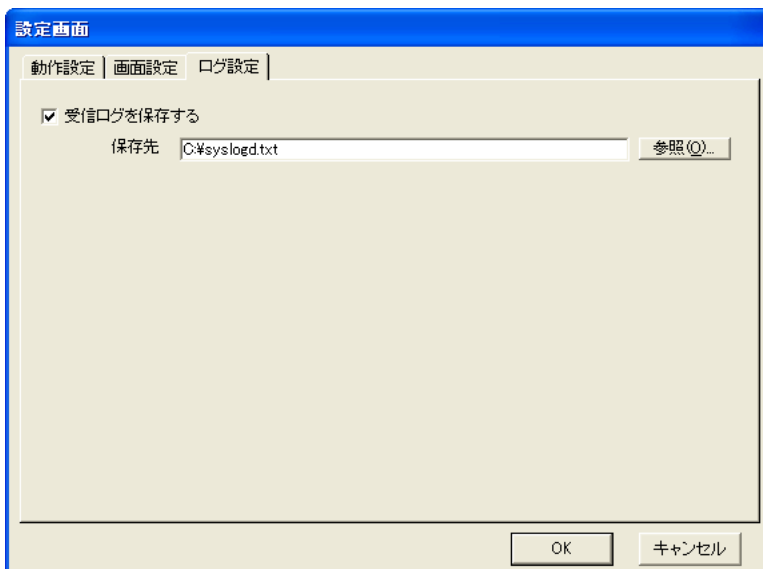
1. システムログサーバを起動します。

☛ 参照 「4.2.1 システムログサーバを起動する」(P39)

2. 「Syslogd」画面の「設定」メニューから「ログ設定」を選択します。
「設定画面」画面が表示されます。



3. 「受信ログを保存する」をチェックし、システムログを保存するファイル名を「保存先」に指定します。
[参照] ボタンをクリックし、保存先を選択することもできます。



4. [OK] ボタンをクリックします。

補足 システムログのファイルは CSV 形式で保存されます。

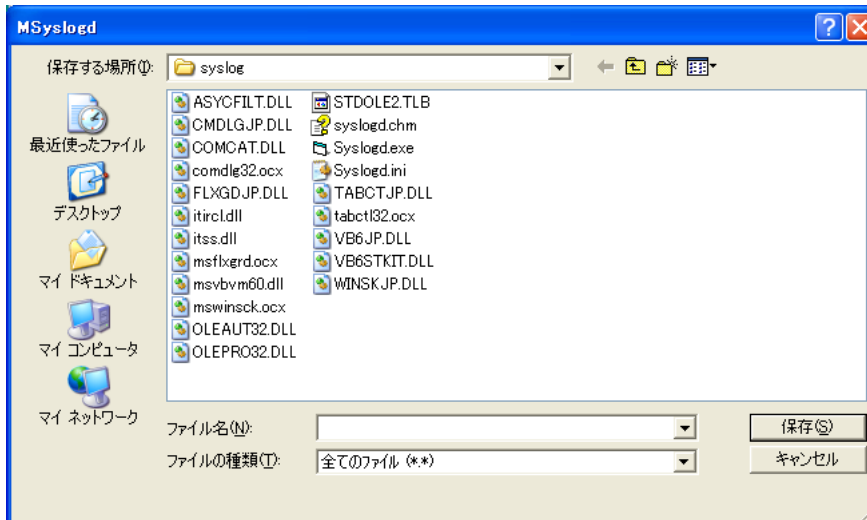
4.2.4 現在表示されているシステムログをファイルに保存する

1. システムログサーバを起動します。

☛ 参照 「4.2.1 システムログサーバを起動する」(P39)

2. Syslogd の「ファイル」メニューから「保存」を選択します。

「MSyslogd」画面が表示されます。



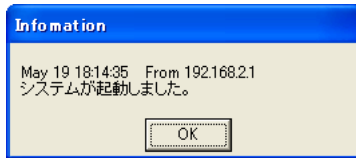
3. 保存するフォルダおよびファイル名を指定します。
4. 「保存」ボタンをクリックします。

☛ 補足 システムログのファイルは CSV 形式で保存されます。

4.2.5 特定メッセージ受信時にポップアップウィンドウで通知する

事前に文字列を設定しておく、その文字列を含むシステムログメッセージを受信したときに、以下のようなポップアップウィンドウでお知らせします。

ポップアップウィンドウは、[OK] ボタンをクリックすると閉じます。ウィンドウを閉じる前に特定メッセージを受信した場合は、ウィンドウ内のメッセージが上書きされます。新しいウィンドウは開きません。



ここでは、以下の条件を設定する場合を例に説明します。

● 設定条件

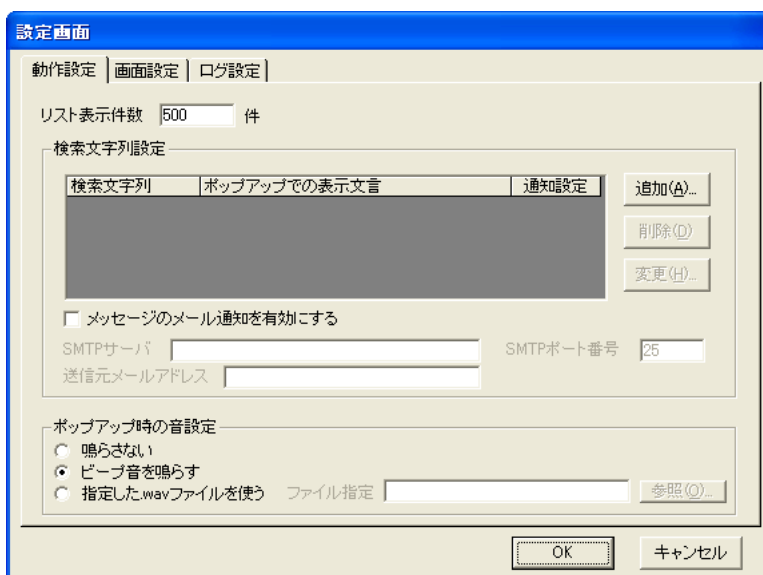
- 検索文字列 : "init: system startup now"
- 表示文言 : システムが起動しました。

1. システムログサーバを起動します。

☞ 参照 「4.2.1 システムログサーバを起動する」(P39)

2. 「Syslogd」画面の「設定」メニューから「動作設定」を選択します。

「設定画面」画面が表示されます。



3. 「検索文字列設定」で「追加」ボタンをクリックします。

「検索文字列設定」画面が表示されます。

4. 以下の項目を指定します。

- 検索文字列 : "init: system startup now"
- 表示文言 : システムが起動しました。



表示文言を省略する場合は、「表示文言の指定を省略する」をチェックします。この場合、ポップアップメッセージとしてシステムログメッセージがそのまま表示されます。

5. [OK] ボタンをクリックします。

「検索文字列設定」に設定内容が追加されます。

6. [OK] ボタンをクリックします。

4.2.6 特定メッセージ受信時にメールで通知する

事前に文字列を設定しておく、その文字列を含むシステムログメッセージを受信したときに、メールを送信してお知らせします。

ここでは以下の条件を設定する場合を例にして説明します。

● 設定条件

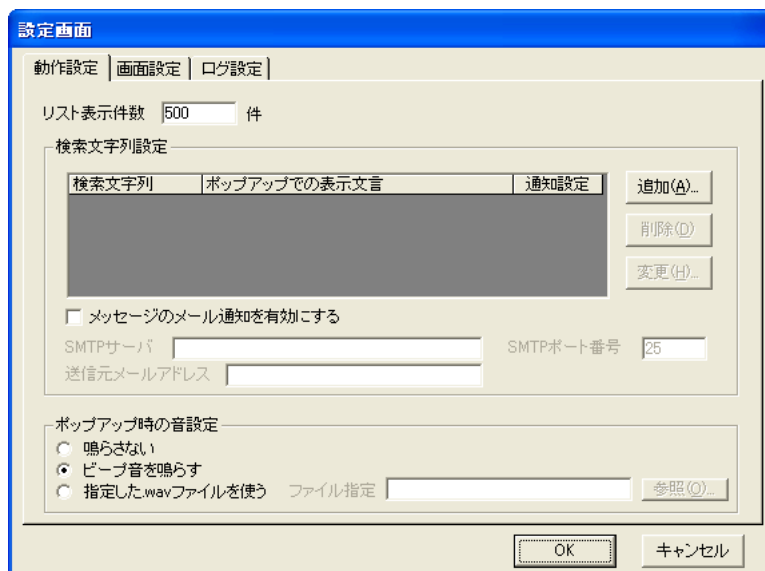
- 検索文字列 : "init: system startup now"
- 表示文言 : システムが起動しました。
- 送信者名 : Si-R 効率化運用ツール
- あて先 : kanri@sir.fujitsu.com
- 件名 : システムログ受信
- 添付文 : 上記メッセージを受信しました。
- SMTP サーバ : smtp.fujitsu.com
- SMTP ポート番号 : 25
- 送信元メールアドレス : admin@sir.fujitsu.com

1. システムログサーバを起動します。

☞ 参照 「4.2.1 システムログサーバを起動する」(P39)

2. 「Syslogd」画面の「設定」メニューから「動作設定」を選択します。

「設定画面」画面が表示されます。



3. 「検索文字列設定」で「追加」ボタンをクリックします。

「検索文字列設定」画面が表示されます。

4. 以下の項目を指定します。

- 検索文字列 : "init: system startup now"
- 表示文言 : システムが起動しました。
- メッセージをメールで通知する : チェックする
- ポップアップを表示しない : チェックする
- 送信者名 : Si-R 効率化運用ツール
- あて先 : kanri@sir.fujitsu.com
- 件名 : システムログ受信
- 添付文 : 上記メッセージを受信しました。



- 表示文言を省略する場合は、「表示文言の指定を省略する」をチェックします。この場合、ポップアップメッセージとしてシステムログメッセージがそのまま表示されます。
- 「ポップアップを表示しない」をチェックしない場合は、メール受信に加えて、ポップアップメッセージも表示されます。
- 「添付文」はお知らせメッセージ（表示文言）の後ろに追加されます。複数行入力する場合は、[Ctrl] キーを押しながら [Enter]（改行）キーを押してください。

5. [OK] ボタンをクリックします。

「検索文字列設定」に設定内容が追加されます。

6. 以下の項目を設定します。

- メッセージのメール通知を有効にする : チェックする
- SMTP サーバ : smtp.fujitsu.com
- SMTP ポート番号 : 25
- 送信元メールアドレス : admin@sir.fujitsu.com

設定画面

動作設定 | 画面設定 | ログ設定

リスト表示件数 500 件

検索文字列設定

検索文字列	ポップアップでの表示文言	通知設定
*init: system start	システムが起動しました。	有り

☒ メッセージのメール通知を有効にする

SMTPサーバ smtp.fujitsu.com SMTPポート番号 25

送信元メールアドレス admin@sir.fujitsu.com

ポップアップ時の音設定

☐ 鳴らさない

☒ ピープ音を鳴らす

☐ 指定した.wavファイルを使う ファイル指定 参照(O)...

OK キャンセル

7. [OK] ボタンをクリックします。

索引

C

CD-ROM 11

I

Internet Explorer 10, 26

S

Si-R 効率化運用クライアント 7

Si-R 効率化運用サーバ 7

Si-R 効率化運用サーバのアンインストール 14

Si-R 効率化運用サーバのインストール 11

Si-R 効率化運用サーバの起動 15

Si-R 効率化運用サーバの終了 17

Si-R 効率化運用ツールの構成 7

Si-R 効率化運用ツール利用時のメリット 8

「Syslogd」画面 39

W

Windows® 2000 10

Windows Vista® 10, 16

Windows® XP 10, 16, 26

あ

アクセス ID 19

アクセスパスワード 19

き

拠点情報の削除 28

拠点情報の変更 28

拠点導入事例 20

拠点名 19

拠点メンテナンス 32

こ

構成定義転送 32

構成定義ファイル 19

し

システム 10

システムログ起動 15

システムログサーバ 7, 38

システムログサーバの起動 39

システムログサーバの終了 40

システムログを随時保存 41

システムログをファイルに保存 42

す

スタートアップ画面 11

せ

接続設定シート 23, 26

そ

装置の IP アドレス 19

装置のパスワード 19

ソフトウェア 10

と

導入サーバ 7

導入サーバ起動 15

特定メッセージ 43, 45

は

ハードウェア 10

ふ

ファームウェア更新 34

ほ

ポップアップウィンドウ 43

め

メール 45

ろ

ログ採取 36

Si-R 効率化運用ツール使用手引書

P3NK-1722-08Z0

発行日 2007 年 11 月

発行責任 富士通株式会社

- 本書の一部または全部を無断で他に転載しないよう、お願いいたします。
- 本書は、改善のために予告なしに変更することがあります。
- 本書に記載されたデータの使用に起因する第三者の特許権、その他の権利、損害については、 弊社はその責を負いません。